性欲で勉強が
手につかなくなった
息子のために
母親である私が・・・
昼下がりの罪深い決意
中編

「す・・・凄い提案・・・ですわね・・・」
私は佐由奈さんを上目遣いで見つめました。
私は人並みで普通の人生を歩んできた人間です。そう思っていました。
大人の分別も、相応に学んできたつもりでいました。
だかこそ、一秒すら考えたこともなかったそんな佐由奈さんの大胆な提案に心を激しく揺さぶられていました。
「そう思う？？」
いつもの落ち着いた雰囲気を崩すことなく、ゆっくり温和な微笑みを浮かべたまま、佐由奈さんは続けました。
「今ではそんなに珍しいことでもないのよ。息子さんの性を母親が慰める。確かに以前はモラルだなんて言われていましたわね・・・」
ゴクリと息をのむ私。
「私は色んな男性と接してきましたわ。色んな価値観に触れても来ました。その中でね、やっぱり人間の“性”って、時に人を狂わせるくらいどうしようもないものなの」
なだめるように話す佐由奈さんに聞き入る私。
「だけど、だからこそ大切な要素だと思うのよ。だからね、もしそれが原因で伸二君がだらけてしまうなら、伸二君に勉強をさせたいんでしょ？なのに伸二君が怠けて堕落してしまうならね、母親であるあなた自身が性を教えてあげればいいのよ」

佐由奈さんは、
“近親同士でセックス”
“母子で肉体関係を持つ”
その倫理的違背を壁に何もしないより、伸二が精神的に成長し、そして心と体にゆとりを保てるために、一番身近な母親が性を解放させてあげることに身体を捧げる方が良い選択だと言ってくれたのです。
その言葉に自分の内面が大きく揺さぶられる衝撃を受けたのは、自分のこれまでの人生が“普通”だと思っていた私にとっては当然のことでした。
だけど・・・・・。
私は、その私の“普通”が、佐由奈さんの話を聞けば聞くほどに、緩やかに溶けていくようなそんな感覚を覚えました。

息子を愛する純粋な母親としての気持ち。

やる気を出して勉強して欲しいという家族の一員としてのシンプルな願い。
一人で自慰を繰り返し、性に悩んでいる様子の息子。
そしてこの日の佐由奈さんの助言。

どうすればいいのか・・・。
回転の悪い頭をひねっても答えが出ません。

今思えば私は結局、自分の心の奥底に潜んだ意思にただ流されるように従っただけだったのかもしれません。

何が正しいのか自分には分からなくなった状況下で、それでも私が出したその結論は、きっと。

きっと。

きっと・・・・・・。

“罪深い”ものだったはずなのです。

母親として、伸二のママとして。
息子を楽にさせてあげたい・・・。

そして、私はそれから三日後、“実行”に移しました。
考えた末の決断でした。
決行の場所はお風呂場に決めました。
伸二の自室も考えたのですが、普段でも裸になるのが当然の浴室の方が、“より自然”だと考えたのです。

“息子と母親が”
セックスすることが。

体験版はここまでです。
もし気に入っていただけましたら、
続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。